

TURBO-MOLECULAR PUMPING PLANT

Publication number: JP2204696

Publication date: 1990-08-14

Inventor: KUNISHIMA SHIGEO; INOUE SHINZO; NARITA KIYOSHI

Applicant: SHIMADZU CORP

Classification:

- International: F04D19/04; F04D19/00; (IPC1-7): F04D19/04

- european:

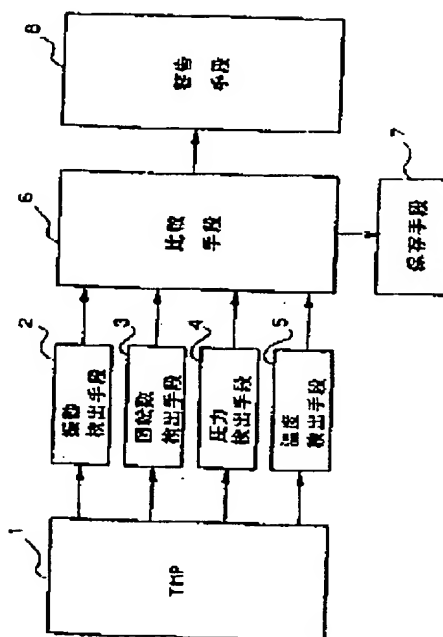
Application number: JP19890022965 19890131

Priority number(s): JP19890022965 19890131

Report a data error here

Abstract of JP2204696

PURPOSE: To perceive a performance drop gradually progressing so accurately as well as to make sure troubleshooting performable in advance by installing each detecting means for vibration, revolution, pressure and temperature, a comparing means for these detected values, a storage means and an alarm means outputting an alarm when trouble judging frequency exceeds the allowable frequency, respectively. **CONSTITUTION:** In this device, there are provided with a vibro-detecting means 2, detecting a vibrational component by measuring the axial displacement of a turbo-molecular pump 1 into spectrum analysis, a speed detecting means 3 detecting axial revolution, a pressure detecting means 4 detecting internal pressure, and a temperature detecting means 5 detecting internal temperature. Also there are provided with a comparing means 6 inputting these detected values and comparing them with the set trouble judging reference value, a storage means 7 capable of maintaining the detected value judged as trouble by this comparing means 6, and a warning means 8 capable of outputting an alarm when trouble judging frequency of the comparing means 6 exceeds the allowable frequency, respectively. Consequently, any performance drop is perceived before leading to a vital accident, and that since the detected value of trouble judgment is kept in the storage means 7, a repairing spot is findable in a relatively easy manner.



Data supplied from the esp@cenet database - Worldwide

⑫ 公開特許公報(A) 平2-204696

⑬ Int. Cl.³

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 平成2年(1990)8月14日

F 04 D 19/04

H

8914-3H

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全6頁)

⑮ 発明の名称 ターボ分子ポンプ装置

⑯ 特 願 平1-22965

⑰ 出 願 平1(1989)1月31日

⑱ 発 明 者 国 島 重 男 京都府京都市右京区西院追分町25番地 株式会社島津製作所五条工場内

⑱ 発 明 者 井 上 新 造 京都府京都市右京区西院追分町25番地 株式会社島津製作所五条工場内

⑱ 発 明 者 成 田 深 京都府京都市右京区西院追分町25番地 株式会社島津製作所五条工場内

⑲ 出 願 人 株式会社島津製作所 京都府京都市中京区西ノ京桑原町1番地

⑳ 代 理 人 弁理士 赤澤 一博

明 細 書

1. 発明の名称

ターボ分子ポンプ装置

2. 特許請求の範囲

ターボ分子ポンプの軸変位を測定しそれをスペクトル解析することによって振動成分を検出する振動検出手段と、前記ポンプの軸回転数を検出する回転数検出手段と、該ポンプの内部圧力を検出する圧力検出手段と、該ポンプの内部温度を検出する温度検出手段と、これらの検出手段から取出される検出値を入力して予め設定した異常判定基準値と比較する比較手段と、この比較手段において異常判定された検出値を維持し得る保存手段と、前記比較手段における異常判定回数が許容回数を上回った場合に出力し得る警告手段とを具備してなることを特徴とするターボ分子ポンプ装置。

3. 発明の詳細な説明

[産業上の利用分野]

本発明は、超高真空を利用する各種の分野に広く適用可能なターボ分子ポンプ装置に関するもの

である。

[従来の技術]

ターボ分子ポンプ(以下、TMPと略称する)は、超高真空の達成手段として、加速器を用いた核融合分野を始め、CVDやスパッタリングに代表される半導体製造装置分野、大形分析機器分野等に広く利用されている。従来のTMPがロータをベアリングによって軸支されていたのに対し、近時のTMPは、回転の高速化とオイルフリーとを達成するために、ベアリングに代えて第6図に示すように磁気軸受101、102、103を採用し、ロータ104を非接触に軸支し得るようになっている。101、102は能動形のラジアル磁気軸受、103は能動形のスラスト磁気軸受である。これらの軸受101~103を制御するために、各々の軸受近傍に変位センサ101a、102a、103aを配置して軸受間の微小隙間を検出し、その検出値を第5図に示すような軸受制御部104に入力するようにしている。軸受制御部104では、変位センサ101a~103aか

ら入力された検出値をアンプ104aで増幅し、コントローラ104bで差動的な修正信号にして、ドライバ104cを介し各磁気軸受101~103の電磁石に駆動電圧を印加できるようになっている。

また、高周波モータ111を駆動するために、発振周波数と出力電圧とを可変し得るインバータ105を備えており、OR回路106とともにシーケンス制御系を構成している。そして、このインバータ105に起動指令が入力されることによってTMP100を立上げ、OR回路106に停止指令が入力されることによってTMP100に制動を加えることができるようになっている。

ところで、この種TMPで最も注意を払うべき点は、軸の振れ回りが過大になった時にロータ104がステータ側に固体接触して軸受が破損する事態(タッチダウン破壊)を回避することにある。このため、変位センサ101a~103aの検出値をコンパレータ107で設定値と比較させ、軸受制御電圧が一定時間に亘ってその設定値を上回

ったときに異常処理回路108を停止モードに切換えるようにしている。異常処理回路108は、停止モードで異常表示灯109を点灯させると同時に、前記OR回路106に停止指令を入力する。また、他の保護機能としては、TMP100内に設置したサーマルプロテクタ110が温度異常を検出した場合、或いは、インバータ105にF/V変換器112を介して接続されているコンパレータ113がタイマ114によって設定した一定の立上り時間後にインバータ発振周波数の異常を検出した場合に、それぞれ前記異常処理回路108を停止モードに切換え得ようになっている。

〔発明が解決しようとする課題〕

ところが、従来のTMPでは、事故が起きる前に性能低下を予知することが極めて難しいという問題を抱えている。例えば、TMPを定期的に点検するにしても、点検箇所はロータの剛性や荷重バランスを始め、バルブなどの流体系路、制御係数の妥当性、モータの疲労度など、広範囲に及ぶ。このため、点検ごとに全てを調べることは不可能

に近い。また、ロータの変形による荷重アンバランスなど、停止しているときには点検してもわからない要素もある。したがって、性能低下が徐々に進行していても、保護機能が働くような重大な異常が生じるか、或いは突発的な事故に至るかしない限り、TMPは継続して運転され、その兆候も伺い知れないのが実状である。しかも、現行のTMPでは、事故が起こった後に異常原因を究明することが極めて難しいといった事情もある。

本発明は、このような問題点に着目してなされたものであって、徐々に進行している性能低下をその具体的状況とともに適確に感知することにより、事前に確実な修理を行い得るようにしたTMP装置を実現することを目的としている。

〔課題を解決するための手段〕

本発明は、かかる目的を達成するために、次のような構成を採用したものである。

すなわち、本発明のTMP装置は、第1図に示すように、TMP1の軸変位を測定しそれをスペクトル解析することによって振動成分を検出する

振動検出手段2と、前記TMP1の軸回転数を検出する回転数検出手段3と、該TMP1の内部圧力を検出する圧力検出手段4と、該TMP1の内部温度を検出する温度検出手段5と、これらの検出手段から取出される検出値を入力して予め設定した異常判定基準値と比較する比較手段6と、この比較手段において異常判定された検出値を維持し得る保存手段7と、前記比較手段6における異常判定回数が許容回数を上回った場合に出力し得る警告手段8とを具備してなることを特徴としている。

〔作用〕

軸変位は、実回転数に等しい周波数の基本振動成分と、その整数倍である高調波振動成分と、場合によってはそれらとは異なる周波数域に現れる振動成分との合成によって生じるもので、何れの振動成分が成長しても、振れ回りが大きくなって危険である。また、TMPには本来的に最も振動の発生し易い固有値があり、軸回転数がその固有振動数に近づくと共振を起こすため振幅が急激に

増大する可能性がある。一方、TMP内部の圧力や温度がにわかに上昇した場合には、近い将来に急激な大気突入やモータ焼損が起きることが予想される。

しかし、このような事故と関係の深いデータを各検出手段から取出し、比較手段で異常であるか否かを判断して、異常検出値がTMP運転中に許容回数を越えるまで度重なったときに警告手段によって警告するようにすれば、重大な事故に至る前に事前に、性能低下が存在することを感知することができる。しかも、保存手段には異常判定された検出値が維持されているので、修理すべき箇所を比較的容易に判別し得るようになる。

〔実施例〕

以下、本発明の一実施例を図面を参照して説明する。

第2図は、本実施例の磁気軸受TMP装置を示している。同図において、軸受制御部11によって駆動される磁気軸受12と、該軸受12の微小隙間を検出する変位センサ13と、モータ駆動部

14によって駆動される高周波モータ15とがTMP1内に一体に組込まれている点は、第5図に示した従来のものと同様である。また、TMP1内の回転数、圧力、温度を検出するために回転センサ16、圧力センサ17、温度センサ18がそれぞれ内設してある。

具体的に説明すると、軸受制御部11では、変位センサ13から取出された検出値をアンプ11aで増幅し、これをコントローラ11bで差動的な修正信号にして、ドライバ11cを介し磁気軸受12を構成する電磁石に駆動電圧を印加できるようにしている。このような構成は、能動5軸についてそれぞれ設けてある。また、モータ駆動部14は、発振周波数と出力電圧とを可変し得るインバータ14aとOR回路14bとによってシーケンス制御系を構成しており、外部から起動指令が入力されるとTMP1を立上げ、OR回路14bに停止指令が入力されるとTMP1に制動を加えることができるようになっている。停止指令は、入力操作か、後述する異常処理回路24の信

号かの何れかによって与えられる。

また、データ処理部20は、前処理回路21と、A/D変換器22と、カウンタ23とを備えており、前述した変位センサ13の検出値を前処理回路21を介してA/D変換器22に入力するとともに、温度センサ18及び圧力センサ17の検出値を直接A/D変換器22に入力するようにしている。すなわち、圧力センサ17とA/D変換器22とが本発明の圧力検出手段を、温度センサ18とA/D変換器22とが本発明の温度検出手段をそれぞれなしている。また、前処理回路21は、変位センサ13からの検出値を2種類の周波数域にスペクトル解析するBPF(バンドパスフィルタ)21a、21bと、それらのフィルタ21a、21bに接続されたピークホールド回路21c、21dとからなり、両周波数域の振幅に比例した電圧がA/D変換器22に入力されるようになっている。すなわち、変位センサ13、アンプ11a及びデータ処理部20で本発明の振動検出手段を構成している。さらに、回転センサ16の検出

値はインバータ14aの発振周波数とともにカウンタ23に入力されるようにしてあり、これが本発明の回転数検出手段をなしている。なお、異常処理回路24では、アンプ11aの出力端に接続したコンパレータ11dから軸受制御電圧が設定値を越えたときに信号を受取り、その状態が予め設定した時間続いたときに、異常表示灯25を点灯させ、同時に前記OR回路14bに停止指令を出力し得るようになっている。

そして、前述したA/D変換器22の出力を、カウンタ23の出力とともに、本発明の比較手段であるマイクロコンピュータ26に入力するようにしている。このマイクロコンピュータ26は、CPU26a、ROM26b、RAM26c、INTERFACE26dを備えた周知のもので、ROM26b内にはCPU26aを制御するプログラムが書込まれている。RAM26c内には、各検出値に対する異常判定基準値が記憶されており、また、短期データエリアと、本発明の保存手段となる異常データエリアとが確保されている。

そして、CPU 26 aは、ROM 26 b内のプログラムに従ってA/D変換器22及びカウンタ23から取込んだデータを逐次処理するとともに、必要に応じてカレンダータイマ27から時間情報として日時データを読込み、或いは、プリンタ28を作動させてRAM 26 c内の異常データをハードコピーすることができるようになっている。プリントアウトは印字指令によって行われる。また、マイクロコンピュータ26には本発明の警告手段である修理予告灯29が接続しており、前記CPU 26 aから適宜点灯指令を出力し得るようになっている。

ROM 26 b内に蓄込まれたプログラムをフローチャートで示すと、第3図のようになる。以下、同図に沿って本実施例の作動を説明する。プログラムがスタートすると、まず、ステップS₁で各種データを取込み、次のステップS₂でそれらを短期データエリアに格納し、このときデータ数がメモリ容量を越えていれば最古データを破棄する。次に、ステップS₃で各種データを異常判定基準

値と比較し、正常値であれば再びスタートに戻る。また、異常値であれば、ステップS₄でカレンダータイマから日付や時刻などの時間情報を読込み、ステップS₅で異常値とともに異常データエリアに格納する。このとき、異常判定の回数をその検出対象ごとにカウントし、そのカウント値が予め設定した許容回数N(例えば10回)に達していないかどうかを判断する。カウント値が許容回数N内であればそのままステップS₆に飛び、許容回数Nに達していればステップS₇で修理予告灯29を点灯させた後にステップS₈に移る。ステップS₈ではプリント指令があるかどうかを判断し、指令があればステップS₉でそれらを印字してプログラムを終わる。また、指令がなければそのままプログラムを終わる。

しかして、以上のようなものであれば、ある検出値に許容回数N以上の異常値が現れたときに修理予告がなされるので、性能低下を事前に感知することができる。この場合、プリント指令があればそれらの異常データがプリントアウトされて出

てくるし、プリントアウトされない場合にも修理予告灯29の点灯を見てRAM 26 c内の異常データを確認することができるので、性能低下の場所や状態を具体的に把握することが可能となる。このため、TMPが重大な事故に至る前に確実な修理を行うことができるようになり、メンテナンスの便宜とTMPの信頼性向上が果たされ得るものとなる。

なお、短期データエリアや異常データエリアに異常値を格納せずに、リアルタイムでプリンタに出力させるようにしてもよい。この場合は、プリンタによるハードコピーが本発明の保存手段としての役割を果たすことになる。また、TMPを並列運転するときは、本装置にそれらを集中管理させることもできる。その他、各部の構成なども、本発明の趣旨を逸脱しない範囲で種々変形が可能である。

【発明の効果】

本発明のTMP装置によれば、TMPが重大な事故に至る前に事前に性能低下が警告され、その

異常検出値が保存されるので、修理の便宜が図られ、TMPの信頼性向上が果たされ得るものとなる。

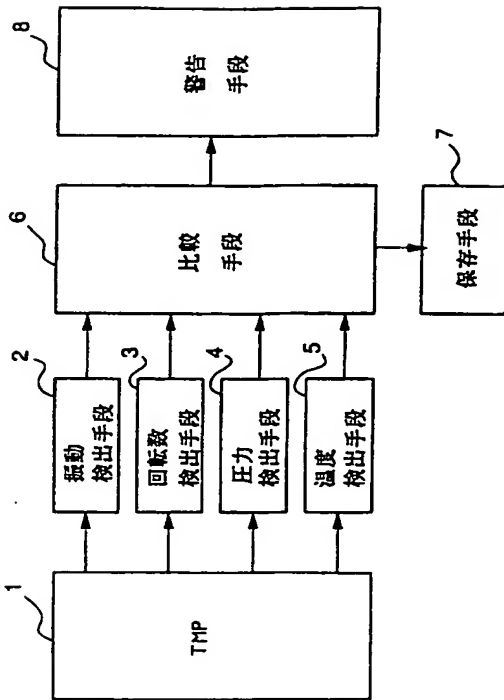
4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明のTMP装置を示す構成説明図である。また、第2および第3図は本発明の一実施例を示し、第2図は回路図、第3図はフローチャート図である。さらに、第4図および第5図は従来例を示し、第4図はTMPの縦断面図、第5図は第2図に対応する回路図である。

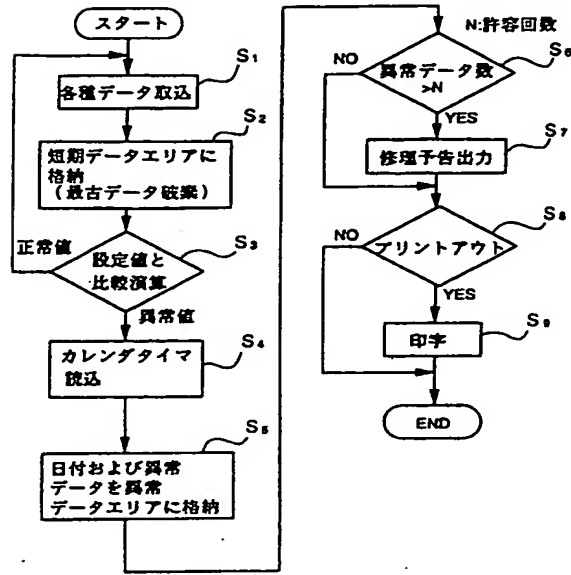
- 1…TMP
- 2…振動検出手段
- 3…回転数検出手段
- 4…圧力検出手段
- 5…温度検出手段
- 6…比較手段
- 7…保存手段
- 8…警告手段

代理人 弁理士 赤澤一博

第 1 図



第 3 図



第 2 図

